

(総合的な学習の時間 国際理解教育・開発教育) 学習指導(活動)案

【実践者】

【特に関連する SDGs】(10・11・17)

氏名 小島 雅実

学校名 愛知県知立市立知立小学校

(JICA 中部 長期社会人研修員

学年(人数) 3年生(125人)を想定

実施教科(領域) 総合・国語・社会他



【実施概要】

1. 単元名(活動名):

「多文化共生の未来都市・知立」ってどういうこと?

2. 単元の目標(評価規準を意識して設定):

- ・世界の多様性や課題などに関心を持ち、進んで調べ、情報発信することができる。
- ・多文化共生都市の一市民としてどう生きていくか、自身の考えをもつことができる。

3. 単元計画(全30時間)		●キルギスに関連する内容等	
時	ねらい	学習活動 《活用する参加型手法》	資料など
1 ～ 8	・自然環境と人々の生き方や文化の関連性に気づく。 ・さまざまな国と肯定的に出会うことで、世界への関心を高める。	【国語】人をつつむ形—世界の家めぐり ・各国の住居を知ることを通し、日本とは異なる生活の様子や気候・特色などについて考える。《対比表、ジグソー法》	
9	・他国の文化に敬意を払い、親しもうとする姿勢を育む。 ・言語も文化も異なる人と、どのような方法や心持ちでつながっていくとよいか考える。	【道徳・国際理解】マサラップ フィリピンから来た ALT と児童の交流。言葉が通じない悔しさを感じた児童が、歓迎給食でフィリピン料理を食べる折、自宅で調べたタガログ語の Masarap! (おいしい) を使い、思いが通じる喜びを感じる。 ・慣れない土地で暮らす人の気持ちを考え、自分たちにできることを意見交換する。	・写真(フィリピン料理・民族衣装)
10 ～ 20	・自国との共通点や相違点などにも目を向け、より理解しやすいまとめ・発表につなげる。 ●キルギスの人・文化などへの関心を高める。	【国語】外国のことをしょうかいしよう ・図書室やインターネットを活用して、特定の国の情報を収集する。 ・Keynote を使って、調べた国についての PR プレゼンテーションをする。 ●キルギス広報大使となった教師のプレゼンテーションを聞き、現地のものに触れる。《フォトランゲージ》	●キルギスの写真 ●実物教材(キルギスの伝統帽子、OVOP 関連商品、新聞、書籍等)
21	●多文化共生の国キルギスの他尊の姿勢に気づく。 ・これからの知立市や日本社会にとって必要な心構えについて自分の考えをもつ。	【道徳・国際理解】Chinese? Korean? ●キルギスの人々の様子から、異文化を理解し、共に過ごすための心構えについて意見交換をし、自分の考えをもつ。《フォトランゲージ》	●キルギスの学校生活の写真、インタビュー記録

22 23 本時	・知立市がいろいろな国につながる人が多く暮らす地域であることに気づく。 ・知立市のまちづくりの方針を知る。	【総合】多文化共生の未来都市・知立？ ・自分たちが住む地域の特色や課題について、昨年の地域学習を振り返りながら意見交換する。《ブレインストーミング、グルーピング》 ・市内の外国人集住地区について情報を共有する。《フォトランゲージ》 ・「多文化共生の未来都市」についての知立市職員へのインタビュー動画を視聴する。	・知立市の地図 ・知立団地の写真 ・知立市役所企画政策課職員へのインタビュー動画
24 25	・知立市が多文化共生の方針を掲げた背景に気づく。 ・身の回りにある多文化共生に向けて配慮がされているものの存在に気づく。	【社会】かわりゆく知立市 ・歴史ある知立市の変遷を知る中で、外国人住民が増えたこの30年間で市内にどんな変化が見られるようになったか考える。《派生図》	・知立市年表 ・知立市多文化共生プラン 2022-2026の要約 ・市役所作成の多言語対応生活ガイドブック
26	・知立市が多文化共生の方針を掲げた背景に気づく。 ・知立市の未来の姿について予想し、あるべき姿を考える。	【総合】「未来都市」の未来とは？ ・自分たちが生まれた年からの知立の変化を知り、この先の知立市がどうなっていくかについて意見交換する。《ブレインストーミング、マトリックス》	・知立市年表
27 28	・外国人住民や外国につながる子どもたちの思いや考えを知る。 ・知立市の良さや課題に気づく。	【総合】外国人集住地区の小学校と交流 知立団地の外国人住民との交流 ・オンラインで集住地区小学校の同学年の児童と交流し、学校の様子や各国の文化などを紹介してもらい、意見交換する。 ・知立団地の外国人の生活を長年支援してきたNGOスタッフで日系ブラジル人のミウラさんの思いに触れる。	・交流 外国人集住地区の小学校3年生児童 ・ゲスト ミウラさん (日系ブラジル人)
29 30	・市の職員に直接意見を伝えることで、多文化共生都市の市民としての自覚をもつ。	【総合】市の職員さんに考えを伝えよう ・学習内容を振り返り、学んできたことを市の企画政策課の方にプレゼンテーションする。また、知立市民である自分たちがどんな思いや考えをもったかを伝え、フィードバックを受ける。 ・自分にできること、仲間とできること、市でできることをゲストと共に意見交換し、まとめる。《ブレインストーミング、マトリックス、決意表明》	・ゲスト 知立市役所企画政策課職員

4. 本時の展開 (22, 23/30)

本時のねらい

- ・知立市がいろいろな国につながる人が多く暮らす地域であることに気づく。
- ・知立市のまちづくりの方針を知り、自身も一市民としてできることがあるということに気づく。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(7分)	1. <u>私たちの住む知立市はどんなところ？</u> (7分) ・各自、知立市についての知識や印象などを付箋に記入する。	・開始前に「質より量」であることを確認する。	・付箋 ・プロッキーセット(グループ数分)

	・長い歴史がある ・山車文楽が有名 ・モールが大きい ・知立神社 ・大あんまき ・大きい川がある		
展開① (38分)	2. <u>2年生の総合「まちたんけん」について振り返り、プレストを続ける（8分）</u> ・必要に応じて情報と視点を追加する。 (生活圏内の住民・産業・店・文化等) ・駅が新しくなった ・新しい道が増えた ・狭くて危ない道が多い ・ゆるキャラ ・工事が多い ・小さい市 3. <u>付箋の意見をグルーピングする（10分）</u> ・内容が似た付箋ごとに仲間分けをする。 ・仲間分けができたら付箋のグループごとにタイトルをつける。 ○店：モール、商店街、和菓子屋 ○道：狭い道、新しい道、工事が多い ○歴史：神社、松並木、祭り ○人：駅は人だらけ、お年寄りが多い 4. <u>ギャラリー形式で情報共有する（7分）</u> ・教室内を自由に移動し、他班のプレストの結果を見て回る。 ・自分の班には無かった考えに対して★印を記入する。	・模造紙に貼る前に「どんな意見も否定しない」「話してから貼る」の2点を確認する。 ・検討に悩む場合はタブレットで途中経過を撮影しておくよう促す。 ・自身の意見に★がないことに落ち込む様子があれば、その意見は「共感されている意見」であることを伝える。	・半模造紙
最近話題の「 未来都市・知立」 に入るキーワードはなんだろう？			
	5. <u>学級全体で情報を整理する（13分）</u> ・各班のグルーピングで出たタイトルと代表的な項目を発表していく。 ・「 未来都市・知立」にどんな言葉が入るか想像する。 ・生まれ変わる ・人が集まる ・長い歴史がある ・住みやすい ・次時の内容を想像させ、休憩を取る。 ▶分岐(1)多文化共生に関連する項目が無い ⇒「今の知立市に大切なことがまだあるかもしれないね」 ▶分岐(2)多文化共生に関連する項目が出た ⇒「これからの知立市や日本にとって特に大切なことは何だろう」	・意見が停滞したらプレストを参考にしよう促す。 ・休憩時間に、次時に向けた話を仲間同士でしたり、タブレットで調べ物をしたりする姿が見られるよう、教師からの問いかけで終えるようにする。	

展開② (35 分)	6. <u>どこの国の写真だろう？ (10 分)</u> ・市内の外国人集住地区と小学校の写真を 見て、どこで撮られた写真か話し合う。 ・ヒントとなる部分を全体で共有する。 ・このアルファベットは見たことがない。 ・きれいな色が好きそうな国だね。 ・サッカーが得意な国かも。 ・標識に日本と同じマークがあるよ。 7. <u>自分の生活する地域に外国から来た人は いるかな (10 分)</u> ・知立市の地図で自分たちの学区や生活圏 と知立市の全体を把握する。 ・輸入食品店や海外料理の飲食店などが生 活圏内にあることを想起させ、知立市に 多くの外国人住民がいることに気づく。 8. <u>知立市役所企画政策課の方へのインタビ ュー動画を見る (7 分)</u> ・外国の方が五千人以上住んでいます。 ・日本での生活が難しい人もいます。 ・みんなのアイデアで知立市をもっと幸せ いっぱいの街にしたい。 9. <u>インタビューの内容について整理する (8 分)</u> ・知立市の職員が考える市の課題を知る。 ・多文化共生という言葉と意味を知る。 ・近くにも困っている人はいるのかな。 ・他の国から来た子たちと話したいな。 ・前の時間のキルギスの話みたいだね。 ・私たちの知恵を貸してほしいって！	・児童のタブレット に写真を送り、見 つけたヒントを書 き込むよう促す。 ・要望があれば、地 図アプリの活用等 も可能であることを 伝える。 ・区切りながら再生 し、大切な言葉や 気づきをメモする 時間を取る。 ・これまでの学習内 容を振り返ること ができるような応 答をする。 ・授業への参加が難 しかった児童にも 教師から内容の確 認をし、言葉を引 き出す。	・知立団地の写真 (ブラジル料理屋、 輸入食料品店、ゴ ミ捨て場の注意書 き、多言語のフリ ーペーパー、イベ ントの様子、サッ カークラブの様 子、外国人住民集 住地区の小学校の 様子、市役所の多 言語資料等) ・知立市の地図 ・知立市役所企画 政策課職員への インタビュー動 画
まとめ (10 分)	10. <u>これまでの学習をふりかえり、以後の学 習テーマを理解する (5 分)</u> ・知立市はどうなっていくと良いだろう？ ・自分たちにできることはどんなこと？ 11. <u>本時の振り返りをロイロノートで記入し て提出する (5 分)</u>	・常に当事者として 思考・活動ができ るように話す。 ・学校外でも自発的 に学びが深められ るようなきっかけ を与える。	
5. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法) 知立市が、いろいろな国につながる人が多く暮らす地域であることに気づき、誰にとっても住みやすいまちづくりのために何ができるかを考える心構えができたか、グループワークの様子やロイロノートの記述から判断する。			

【資料および想定される外部との連携】

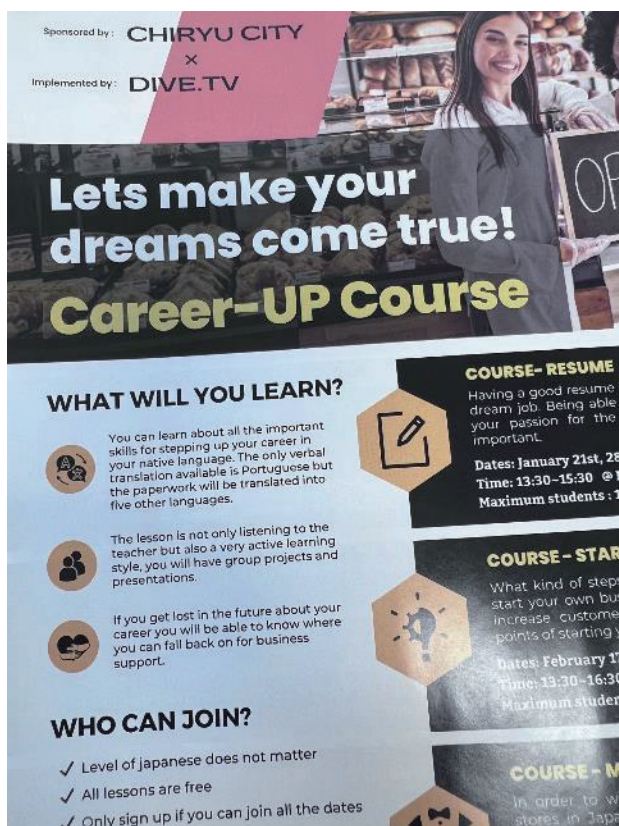
- ・ 知立市役所企画政策課
- ・ 知立市昭和団地内 合同会社 Starteyes
- ・ 知立市多文化共生プラン 2022-2026
- ・ 知立市役所作成 多言語対応パンフレット等

【自己評価】

苦勞した点	特定の教科指導に限定せず、教科横断的な学びの構想をすることと、学年間の学びの前後関係を意識した単元構想にすることを心がけた。そのため、どの教科のどの内容とリンクさせられそうか複数学年の年間指導計画から抽出する部分では苦勞した。
改善点	下記※参照
成果が出た点	—
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	—
授業者による自由記述	長期社会人研修員という立場上、実践の場が無かったため、想定される子どもたちのリアクションや、実際の進行の妥当性についても検証ができていない。また次年度、学校現場に戻った際に、この授業案をそのまま実践できる状況にないことも想定されるが、それぞれの要素をどこで織り込んでいくかということをあらためて考え、教師海外研修の学びを十二分に生かしていきたい。 また、ファシリテーターという立ち位置で授業を進めることについてよく学んだ一年であったため、子どもたちが主体となり、一人一人が輝けるような参加型学習の形をさらに追究していくことができたと感じている。
次年度以降の取組予定	・ キルギスをはじめとする海外協力隊員の派遣先学校とのオンライン交流 ・ JICA 国際協力出前講座の活用 ・ 知立市で働く外国人住民との交流 ・ ブラジル人学校や外国人集住地区の小学校との共同学習や発表会

※JICA 中部の長期社会人研修員である小島教諭は、広報業務を担当する JICA スタッフの立場を兼ねて研修に参加した。授業実践の場を持たない都合上、他の参加者と報告内容が一部異なる。

(フォトランゲージ 使用写真①)





わたしの一枚

タイトル： ふたつのキルギス



写真を撮った場所： イシククル村

現地到着後、私たちを待っていたのは、たくさんの車が走り、ものに溢れ、新年に向けて煌びやかにライトアップされている首都ビシュケクの街並みだった。事前学習の中でキルギスに関する様々な情報を得ていたものの、想像のはるか上の快適さ。日本での自分の生活と重なる部分をたくさん見ていた。

「ビシュケクは別の国。これがキルギスですよ」
首都を離れた私たちにそう笑顔で話すキルギス人の通訳さんの言葉に、不思議とまったく心苦しい思いにはならなかった。確かに首都とはかけ離れた風景が広がってはいるが、きっとここにしかないしあわせの形がある。素直に、それを知りたいと感じた。

氏名： 小島 雅実

学校名： 愛知県知立市立知立小学校（JICA 中部 長期社会人研修員）